令和５年度 第１回学校運営協議会・学校関係者評価委員会　議事録

期日：令和５年６月１４日（木）
１３：００～１４：３０
場所：岡山東支援学校
ボランティアルーム

出席者：委員１４名
石井委員、五代儀委員、大野呂委員、小坂委員、杉野委員、瀧浪委員、
那須委員、人見委員、福田委員、本田委員、宮野委員、森脇委員、
山本委員、原田委員
本校職員９名
白川事務部長、清岡副校長、實村教頭、石居教頭、吉田教頭、
金子教頭、影山教頭、橋田教頭、永禮主幹教諭

１ 開 会
＜委員委嘱＞
（事 務 局）　本来であれば、学校長から一人ずつ委嘱させていただくのが筋であるが、この場で一括して委任させていただきたい。

＜あいさつ＞
（学 校 長）　今年度から学校評議員会を発展・充実させて本協議会の取り組みをスタートさせる。いわゆるコミュニティスクールといわれる制度であり、協議の内容を今後、学校経営計画に反映させていく。この地域の子どもたちが暮らしやすい街作りに向けお力添え願いたい。
世の中は３年間のコロナ禍が終わりを迎えようとしているが、本校は医療的ケアや基礎疾患がある子どもたちが在籍していることから、一足飛びにアフターコロナというわけには行かず、少しずつ日常を取り戻していっているところ

であり、コロナ対応で得た知見を生かしながら、新しい教育活動を作ってまいりたい。

＜出席者自己紹介＞

２ 説　明

（１）本校の概要について

（事 務 局） 本校の概要について、動画でご紹介させていただきたい。

＜学校紹介動画視聴＞

（２）学校運営協議会の趣旨について

＜事務局が資料により説明＞

（事 務 局） 本年度については、本校の営みを見ていただき、ご意見をいただいて来年度の方針を決めていくことが大切かと考えているので、お力添えを願いたい。

２ 協 議

（事 務 局） 協議に先立って、会則第１０条に基づき、会長と副会長を選出したい。

（委　　員） 事務局案はあるか。

（事 務 局） 会長を学識経験者の大野呂委員、副会長を本校の地域学校協働活動推進員の小坂委員としてはいかがか。

（委　　員） ＜賛成多数により了承＞

（１）令和５年度学校運営について

＜校長が資料により説明＞

（学 校 長） 私たち教職員が専門性を高め、子どもたちが持てる力を最大限に発揮できるようにするとともに、地域と連携をして充実した教育活動を展開し、地域とともに子どもたちが暮らしやすい地域社会を作っていく、そんな学校を目指したい。

（２）各学部の取組について

＜各部教頭が資料により説明＞

（Ａ小教頭）　肢体不自由部門小学部では、３４名の児童について、医療的ケア等の様々な対応が必要な子どもたちの日々の健康状態に配慮しながら、学習に取り組むようにしている。

（Ａ中教頭）　肢体不自由部門中学部では、訪問教育１名を含む１４名が在籍している。小学部での大人との関わりをベースにしながら、徐々に教師を仲立ちにし、友達との関わりが増えるような取組の中で集団参加やコミュニケーションの力を育んでいる。

（Ａ高教頭）　肢体不自由部門高等部では、６名の生徒に対し、小学部・中学部で重ねてきた学習をベースに、卒業後を見据えて教育活動を進めている。地域との交流としては、学校間交流のほか、小学校の就学前の保護者の集まりと交流している。

（Ｂ小教頭）　知的障害部門小学部では、日常生活の指導を中心に、毎日の生活で自分のものの片付け、食事、係の仕事などの学習を行うとともに、教科の学習としても発達段階に応じて生活の中から課題を見つけて学びを進めている。また、竜ノ口小との学校間交流も行っている。

（Ｂ中教頭）　知的障害部門中学部では、小学部・小学校からの学びをつなぎながら、この後の高等部以降に必要となる力を身につけることができるよう指導・支援を行っている。現在、旭東中との学校間交流に向けて準備を行っている。

（Ｂ高教頭）　知的障害部門高等部では、肢体不自由部門と同様、これまで身につけた力をさらに伸ばし、卒業後に向け、必要な力を身につけることができるよう、体験的な活動をとおして、教育活動を行っている。地域型実習で、地域の方からの学びも重要視している。

（３）いじめ対策について

＜生徒指導主事が資料により説明＞

（生徒指導主事）　本校では、いじめ防止基本方針を策定し、いじめを未然防止・早期発見するため、教職員が研修を行うとともに、計画的なアンケート、教育相談等を

行っている。教職員一人一人がアンテナを高く張って、子どもたちの小さな変化に気づき、対策をすすめ、組織として対応している。

（４）まとめ

（委　　員）　子どもたちは、どのような地域からどんな形で通ってきているのか。また、地域連携の具体的なイメージについて知りたい。

（事 務 局）　肢体不自由部門と知的障害部門で異なっている。肢体不自由部門は岡山市東部、瀬戸内市、備前市等の東部一帯となっており、知的障害部門は岡山市東部である。通学方法は、スクールバス７台と送迎が中心となっているが、高等部では自力通学で自転車、電車、路線バスなどもある。

今現在の状況については、資料にある関係機関の方に来ていただいたり、訪問したりしている。次回以降で逐次ご紹介していきたい。それぞれの部が、いろんな期待をもっているので、ぜひ今後この場で相談してまいりたい。

（委　　員）　小・中学校との交流及び共同学習はとても大事だと思うコロナ禍での交流はどうだったのか知りたい。また、障害が多様化している。重複障害や強度行動障害等の研修の状況について、特に一般校から移動した教員に対する研修の状況を知りたい。

（事 務 局）　学校間交流については、コロナにあって中止したものもあるが、ＩＣＴを活用して遠隔で行うなどの対応を行った。地域の子として暮らすことを考えると居住地の学校と交流するいわゆる居住地校交流を積極的に進めているところである。

一般校や他の障害種の特別支援学校から異動してくる教員も多く、校内・校外で研修を行うだけでなく、ＯＪＴの形でそれぞれの部門で必要な研修を適宜行っている。

（委　　員）　特別支援学校で働くということは、ご苦労が多いと拝察する。困難の大きい子どもたちを育て、社会に送り出すことは大変だと感じている。社会全体で見守っていくことが大切だと改めて感じた。初めての経験だが、役に立てるよう頑張りたい。

（委　　員）　我が子が本校高等部に通っている。小学校入学時に普通の小学校と迷ったが、専門性の高い本校を選んだ。当時、居住地校交流があるのは知っていたが、あまり積極的ではなかった。現在はどういう状況にあるのか。

（事 務 局）　小中学部の保護者にお勧めしているが、このコロナ禍で直接的な交流はあまり進んでいない。お手紙などの間接交流から始めている。まだ実施しているのは半数以下なので、今後推進していきたい。

（委　　員）　いじめについて、協議事項に取り上げられているが、本校の状況に何か問題があるのか。

（事 務 局）　特段、本校でのいじめ案件が多いという訳ではなく、未然防止に力を入れたいということから協議事項として取り上げた。心配いただくような状況ではない。

（委　　員）　センター的機能として、是非地域の小中学校と連携する取組を増やしてほしい。児童生徒だけでなく、教員同士も交流を深めてほしい。

（事 務 局）　近隣の学校を訪問して研修したり、本校で研修会を企画実施する活動も行っているところであり、しっかり声をかけていきたい。

（委　　員）　支援学校に限ったことではないが、近年のいじめ・トラブルには携帯電話やＳＮＳ、ネットのゲームなどが関わることが多いので、こういったことを重視して取組が重要だと思う。

（委　　員）　いじめだという意識がないまま、加害・被害にかかわることもあるので、ネットに関わるトラブルへの対応は重要だと思う。

（委　　員）　療育を専門としている福祉関係の事業所が増えているが、学校だからこそできることがあるのではないかと感じることがある。また、保護者の中に、本人の体調などを理由に学校を休ませるなどしているのをみると、学校の教育活動を軽視しているように見えることがある。学校教育はとても大切であり、ぜひ学校に行ってほしいと思っている。

（委　　員）　児童生徒の中には、障害からくる困難さで、なかなかいじめなどの苦しさをうまく伝えることができない子もいるのではないかと思うが、どう対応しているか。

（事 務 局）　アンケートや相談等ではなかなかうまく伝えることが難しいことから、丁寧に聞き取ったり、いろいろな立場の教員が丁寧に接したりするなど、個々の児童生徒に寄り添いながら、変化に気づけるようにしているところである。

（委　　員）　就労の状況について知りたい。

（事 務 局）　一般就労、Ａ型・Ｂ型、就労継続支援や生活訓練施設に入所される方など、様々な進路先に進んでいる。卒業後もフォローを行っているところだが、なかなか難しいケースもある。次回以降、就労等について詳しくご説明したい。

（委　　員）　我が子が本校に通っている。地域の小学校と交流したときに、幼稚園のころに一緒に過ごした地域の子どもたちが我が子のことをよくわかってくれていてすごいと思った。幼少期、一緒に関われた経験は大事だと思う。

学校関係者評価委員会説明

（Ｉ）学校関係者評価について

＜事務局が資料により説明＞

（事 務 局）　今後、アンケートの分析等を本会でご協議いただくなど、学校の営みを本会でしっかり評価していただきたいと考えている。

＜あいさつ＞

（学 校 長）　多くのご意見・ご提案をいただき、感謝している。しっかりと心に留めて、今年度の学校運営、教育活動を行ってまいりたい。